

## 梅窓院通信

秋彼岸号

No.138  
2025/09/01

## 青山



凛と立ち、秋を染める彼岸花

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成

今年もはや秋彼岸を迎える頃となりました。空梅雨に猛暑と温暖化による気候変動が続いています。どうぞくれぐれもご自愛お忘れなく、毎日をお過ごしください。

さて、去る六月初旬、私が会長を務めさせていただいている水月会、宗派を超えたお坊さんを中心とした支援団体ですが、毎年恒例の贈呈式が行われました。発足当時から東南アジアでの学校建設や教育支援活動を中心としていましたが、今はウクライナ難民の支援に力を注いでいます。また、今年には日本国内の身体的障害者、中でも車椅子の方の外出を看護される方々の支援も始めました。仏教の基本精神である自利利他を実践している団体があることをお伝えさせていただきます。

翌週には開山忌を厳修しました。梅窓院の開山上人への報恩謝徳法要ですが、参拝者も限られていることから、来年度からは皆さまへのご案内を控え、内々で勤めさせていただくことにいたします。

六月二十日には郡上おどりin青山法要を厳修し、式中に梅窓院の開基である青山家の次期当主を指名する儀式が行われ、奉告文を読み上げられました。次期当主の青山幸紀公は青山幸喜公の弟に当たる方で、郡上八幡に在住されています。当主継承については『青山』の特集ページで詳しくお伝えする予定です。

チラシを同封させていただきましたが、十月二十三日(木)に、M・ファン・デン・フックさんのメモリアルコンサートを梅窓院祖師堂で開催いたします。メモリアルと付きますようにフックさんは、三年前、コロナで他界されました。それまで梅窓院で毎年コンサートを開催されており、その力強いピアノ演奏に魅了された檀信徒さんもたくさんいらっしゃいました。そのフックさんの追悼のコンサートとなります。檀信徒料金が設定されているので八面と同封のチラシをご覧ください、お越しください。

最後になりますが、墓苑参道の舗装工事の目処がようやく立ちました。来年、令和八年の春までには完成する予定です。長い間ご不便をお掛けしていますが、今しばらくご辛抱ください。



# 仏教歳時風物詩(70)

## 秋念仏のひと時

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

### 新

涼のさわやかさの初秋から、落葉しきりに肌寒い晩秋まで、日本列島の秋は暑くもなく、寒くもなく、しのぎやすい温暖な時候である。実りの秋、収穫の秋、そして行楽の秋、読書の秋、スポーツの秋などなど、高秋・白秋・金秋の好季は、私たちの一年の生活に大いなる潤いと和みを与えてくれるのである。

しかし秋はまた、物事の盛りが過ぎて、なにかしらものさびしく、うらがなしい感傷の秋、憂愁の秋であり、また人生の秋を感じる時でもある。秋思秋懐——、秋へのもの思いはまことに尽きることがない。ここに私のごときは、ともすれば老いの悩みに愚痴をこぼし、小人の愚想にふけり、あたら無闇に無駄な時間を過ごしてしまふことが多い。そして中唐の詩人張籍のこんな「詠懐」詩にたわいなく同調してしまふのである。

老去多悲事 老い去つて悲事多し  
非唯見二毛 唯だ二毛を見るのみに  
非ず  
眼昏書字大 眼昏くして書字大きく  
耳重語声高 耳重くして語声高し  
(年をとると悲しいことが多い、白髪

になるだけのことではない、目は衰え書く字は大きく、耳は遠くなり話す声もかん高い)

——とは言え、そんな悲観的な消極的な思いを振り切つて、いよいよ天高く、空気のますます澄み切つた爽秋・清秋に対して心身を正して、ここでは秋の秀句を二、三鑑賞しながら、みずからの歩むべき一歩一歩をしっかりと見定めて行きたい。

秋空や高きは深き水の色 (東洋城)  
見つつ消ゆ雲あり秋の雲の中 (爽雨)

秋天秋雲をはるかに遠く仰ぎ見て、松根東洋城は「深き水の色」と詠んで、皆吉爽雨は「秋の雲の中」と詠んで、それぞれ下五・座五をおだやかに落ち着かせたところに、両大家の手腕がある。

秋の雲大仏の上に結び解け (虚子)  
国宝の塔秋天へ翼張る (昭児)

次は秋天秋雲をめぐる仏教句。高浜虚子は鎌倉大仏のおおらかなお姿を大空を行く秋の雲のさまに浮かび上がらせ、「結び解け」という下五の

表現を用意したのである。岡本昭児は奈良飛鳥の宝塔の最上層の屋根構えが天空へ向けて「翼張る」と詠んだ。やはり座五が効いている。

秋の日のつかれば老いに狎るとき (夜叉)

天高く人生なんと恥多き (真砂女)

橋本夜叉は「雲母」の同人で、東京商大を卒業して商社の役員を長く勤めた人。鈴木真砂女は久保田万太郎、安住敦に師事して波乱の生涯を送り、すぐれた恋の句を多く作つた人。この両句は、老境真つ只中の私にとつて共感の上ないものである。

入り日拜む秋念仏の唱和かな (裕彦)

秋のお彼岸を迎えるといよいよ秋本番である。秋気澄み渡つて次第に深まり行く秋へ向けて、秋念仏の高声唱和によって、あかるくなかよく前向きな歩みを継続して行きたい。ころんだり、くじけたり、うろたえたりすることなく、声掛け合つて、気をつけ合い、しつかりとともどもにこの秋を元気に歩み合つて行きたい。

(大正大学名誉教授)

### 5・6・7月の行事報告

施餓鬼会法要  
5月17日(土)



第89回念仏と法話の会  
6月5日(木)

郡上おどりin 青山法要  
6月20日(金)



開山忌法要  
6月14日(土)

盂蘭盆会法要  
7月13日(日)





令和6年の秋彼岸の様子

1962年荒川区生まれ。1981年三遊亭圓歌師匠に入門。1993年女性初の真打ち昇進(女流杵)。2000年女流杵が撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。2010年6月～2024年6月まで落語協会理事・演芸家連合常任理事を務めた。

前座:翁家日和

※場所や内容が変更になる場合がございます。

# 秋彼岸会法要

午後二時～地下二階祖師堂

## 彼岸寄席

午後一時～地下二階祖師堂

ご法要の受付は一階観音堂にてお済ませください。  
祖師堂入口はご利用いただけませんので、ご注意ください。

# 九月二十三日(火祝)

# 秋彼岸法要

### 塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

- お申込み方法  
同封のハガキにご記入の上、9月15日(月・祝)必着でお申込みください。
- お支払い方法  
同封の払込取扱票で郵便局にてお支払いいただくか、受付までお持ちください。  
**銀行・コンビニでのお支払いはできません。**  
また、払込取扱票に記載の口座番号00130-4-93033はお支払い金額ではありませんので、ご注意ください。
- お塔婆のお渡し  
秋彼岸会法要終了後にお渡しいたします。ご欠席の場合は後日、僧侶にて建てさせていただきます。  
ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせください。

### お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方の車で境内が大変混みます。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用ください。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いいたします。
- 会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整できる服装でご来寺ください。

### 秋彼岸会によせて

お彼岸は、他の仏教国では見られない日本独自の行事です。

日本は農作が盛んで古来より太陽信仰(＝毎年、春・秋の彼岸中日に太陽が真東から昇り真西に沈む様子を拝み、太陽や自然の恵みに感謝する信仰)が定着しており、これを「日願(ひがん)」とも呼んでいました。

また日本仏教では「此岸(しがん)」と「彼岸(ひがん)」という概念があり、此岸は欲や煩惱にまみれた世界(娑婆世界、この世)、彼岸は仏の住む浄土の世界(悟りの世界、あの世)、そして此岸と彼岸の間に流れる川のことを「三途の川(さんずのかわ)」と呼び、彼岸期間は此岸と彼岸の距離が最も近くなると考えられています。

この「日願」と「彼岸」という概念が結びついたことで「お彼岸」が誕生したのです。  
真西に沈む太陽に祈りを捧げ、煩惱を払い、この日に夕日を拝むのは西にある浄土、つまり阿弥陀様のいらっしゃる「西方極楽浄土」に向かつて拝むこととなります。

元々「彼岸」という言葉の語源は古代インド・サンスクリット語の「paramita(パラミタ)」からきており、日本では音写語で「波羅蜜多(はらみた)」と表記されました。この漢訳は「至彼岸(とうひがん)＝彼岸に至る」になることから、「彼岸」は「悟りの世界(西方極楽浄土)へと辿り着く」という意味になります。

秋彼岸にはどうぞ、今は亡き大切な人を偲んで沈む夕日に手を合わせていただき、お浄土の世界に思いを馳せていただけましたら、きっと良いご供養になるでしょう。

合掌

(法務部 菅原麻耶)

令和7年度  
秋のペット慰霊法要の  
お知らせ

梅窓院僧侶がご供養をいたします。ぜひご参列ください。  
開始時間: 正午～ 2階本堂  
主催: 株式会社ジャパンエキスパートシステム





# 武鈴子の食は命なり



二〇〇一年 新年号から連載が始まった「食は命なり」。

薬膳研究家の武鈴子先生が『青山』が皆さんのお手元に届く季節ならではののお勧めの食材を選び、時にはレシシピまで紹介されるコラムとして好評を博してきました。

この人気コーナーが今号で連載百回目を迎え、幕を閉じることになりました。そこで、今回は今までに登場した食材のベストテンをはじめ、武先生と梅窓院とのご縁などを振り返ります。

「食は命なり」は二十四年もの長きにわたり、皆さまへお届けしてきたコラムです。

普段、何気なく食べている食材に注目され、それを五味五性という特性に分類して、わかりやすく、身近なものとして武先生が紹介してくれた「食は命なり」。私たちにとってかけがえの無い健康を考える記事として、毎号楽しみにされていた読者も多くいらっしやっただと思います。

この九十九回の連載に出てきた食材を数えてみると、全部で約百十種類もありました。そのすべての食材が一つひとつ個性を持って、私たちの身体の機能回復、病気予防、そしてバランスを保つてくれる大事な命のもとです。

さて、その中で最も登場したのが、梅でした。梅は酸味を代表し、「梅は三毒を絶つ」と言われ、日本の食卓には常備されていた体の守り神です。梅干し入りのおにぎり、日の丸弁当が疲労回復、肥満防止、糖尿病予防と、まさに日本人の健康を支えてきてくれたのです。

とはいえ、日の丸弁当はすでに遠い過去のもの。今のお弁当にはお肉料理を中心にしたものが多くなり、また、朝食はパン、というお家がどれだけ増えたことでしょうか。

武先生は昭和十二年鹿児島生まれですから、戦前戦後の食糧不足の時代も経験されていますので、日本人の食の変化を目の当たりにされてきました。

その中で大きな出来事が、平成二十五年の和食のユネスコの無形文化財への登録でした。それまでの東洋医学的な見地に、和食という伝統的な食事、四季折々ならではの食材、地産地消という地域ならではの伝統食が見直されたことで、『和食薬膳のすすめ』という著書のある武先生にはまさに力強い後押しになりました。そして、梅窓院でも、

薬膳で健康に  
—— 体が喜ぶ食べ物、食べ方 ——  
と題して、平成二十七年の秋の梅

窓院文化講演会で、武先生にご講師をお務めいただきました。ここでは「二味の原則」をキーワードに賢い食べ方を紹介され、ちよっとした工夫の大切さを教えていただきました。もちろん、『青山』の特集にもご登場いただいています。

私たちの健康を支える食について多角的に教えていただいた武先生に、誌面からですが、編集部一同よりお礼申し上げます。また、長きにわたりご愛読いただきました皆さまにもお礼申し上げます。

五味五性と調和



連載に登場した武先生、オススメの

# 食材ベスト10

99回の連載の中で、多く登場した食材を調べてみました。皆さんのお好きな食べ物はどのくらいありますか。

第1位 **梅** 登場回数 13回



第2位 **ごま** 登場回数 10回



第3位 **小豆** 登場回数 9回



第4位	黒豆	登場回数	8回
第5位	よもぎ	登場回数	7回
第6位	生姜	登場回数	6回
第6位	菊花	登場回数	6回
第6位	栗	登場回数	6回
第9位	ねぎ	登場回数	5回
第9位	納豆	登場回数	5回



プロフィール

武 鈴子 先生

1937年 鹿児島県生まれ

1970年 柳沢成人病研究所に勤務、薬膳研究

1986年 訪中し本場で薬膳研究

1993年 日本の薬膳、伝統的食文化研究

1999年 「社会文化功労賞」授与

現在、「東京薬膳研究所」代表、日中医薬研究会会員、各種講演会等の講師、コンサルタントを務める。

近著『野菜の力をいかす和食薬膳レシピ』、『からだに効く和の薬膳便利帳』

連載を終えるにあたり

武 鈴子

私は今年八十四歳を迎えました。一九七五年前後から薬膳の研究に取り組んで約半世紀。そしてこの『青山』での連載が二〇〇一年からです。約四半世紀にわたり原稿を書かせていただいたことになりました。

まずはこうして長期にわたり、薬膳の魅力をアピールする機会をいただいたことに深く感謝いたします。

振り返れば、連載当初は今のようにはメールでの原稿のやり取りではありませんでした。編集担当の女性が私の「原稿ができました」という電話連絡を、当時は目黒にあった私の研究所に足を運んでくれたものです。わざわざお越しいただいたおもてなしにお茶をお出ししたのですが、普通のお茶ではなく、毎回薬膳のお茶を出しました。普段飲んだことのない、香や味に、「これ何のお茶ですか」の質問から、毎回薬膳の話に花が咲いたものです。

今こそ薬膳という言葉は市民権を得ていますが、まだ、中国の漢方薬のイメージが強かった頃ですので、私も若い女性に、いかに口に

するものが大切か、どういう食べ方をするのが良いのかを少しでも伝えられたのだ、と懐かしく思い出します。

これは、『青山』が百号を迎えた時の私のお祝いですが、「食物は生きるために不可欠なものです。そのうえ何を食へるかによって人間の体は大きく左右されます。仏教用語に「身土不二」という言葉があります。すなわち人間が生まれ育った風土と調和することがもつとも理に叶った生き方であるということです」

私は社会に出て食の仕事につきました。そして、普段私たちが口にしている水の大切さを教えられたことで、今日の自分があると思っています。

当たり前なのですが、食べ物が体を作ります。もちろん、口に合う、合わないは仕方ないことで、無理に食べたくないものを口にする必要はありません。ですから、たくさんある食材を上手に組み合わせ、美味しく食べながら、しかも命を養うことができます。そんな日常の食を追い求めてきました。こうした思いが少しでも皆さんに伝わっていたら幸いこの上ないことです。

来年、創立70周年を迎える株式会社アルビオンは日本を代表する高級化粧品会社です。戦後直後の昭和21年3月に創業したコーセー化粧品の創業者、小林孝三郎氏が、その10年後に高級品時代の到来を予見して設立した高級化粧品専門の会社で、小林章一社長はその3代目。そして孝三郎氏の次男で、章一社長の父でもある2代目の小林英夫氏が11年前に梅窓院にお墓を作られました。その経緯などを伺います。

◆本日はお忙しい中、お時間をいただき、ありがとうございます。

小林章一社長 (以下小林) いいえ、こちらこそ当社まで足をお運びいただき恐縮です。

◆9月の新社屋完成まで待てずに伺ってしまいました。梅窓院に御尊父がお墓を建てられたのが11年前でしたが、その経緯を伺わせてください。

小林 その頃はすでに私がアルビオンの社長でした。ある日突然父に「お墓を見に行こう」と声を掛けられ、急にどうしたのだと思いながら、梅窓院に一緒に出かけました。

◆見学先を梅窓院にされた訳は何だったのでしょうか。

小林 ロータークラブのお仲間を紹介されたと聞いたことがあります。行き先が青山と聞いて、私もいい場所にあるなと思いました。

◆青山にゆかりがあったのでしょうか。

小林 はい。父は入院する前までは南麻布に住んでいましたので、青山は馴染みのある街でした。

そして、見学と言っていたのが、場所や広さを見て、急に「ここにする」と即断即決されたのです。

◆驚かれましたか。

小林 ええ、父は普段は慎重派で、むしろ僕の方が祖父に似て即断即決派だったので驚きました。しかも、それまでの菩提寺は浄土真宗大谷派でしたから、転宗することになります。まあ、両派の根っこは同じでも大きな決断かと。本当に気に入ったのですね。

◆梅窓院としては嬉しい限りです。そのお父様が今年の1月にご逝去されてしまい……。

小林 2020年10月に倒れられ、40日間意識を失いました。米寿でしたが、その歳で長く意識を失うと、意識が戻っても、噛むことや飲み込むことが難しくなり、入院生活を余儀なくされました。4年あまり頑張りましたが、今年の1月に天寿を全うされました。



取材で訪れたアルビオン本社にて

◆梅窓院でご葬儀、そして四十九日法要、納骨法要を務めさせていただきましたが、気に入られたお墓に眠られたのは何よりではないかと。

小林 そうですね。満足していると思います。

自宅の近くでもあり、私もよくお参りしています。お墓参りで墓石を拭くのですが、雑巾が全然汚れない。小林家の本家の墓は谷中にあるのですが、拭いた雑巾が茶色くなってしまいます。梅窓院さんは墓苑をいつも綺麗にされていると実感しています。

◆それは嬉しいですね。これからも気持ちよくお墓参りしてもらえるよう墓苑を綺麗に保って参ります。今日はお忙しい中、大変ありがとうございました。



美容に対する想い、やりがいなど貴重なお話をしてくださった小林社長

#### プロフィール

小林 章一 (こばやし しょういち) 代表取締役社長  
1963年東京都生まれ。1986年慶應義塾大学法学部を卒業。西武百貨店勤務。1988年にアルビオン入社。ブランドビジネスに携わる。フランス勤務を経て、1991年取締役役に就任。その後、マーケティング本部長・営業本部長・常務・副社長を経て2006年6月より現職。2014年4月より東京農業大学客員教授も務める。

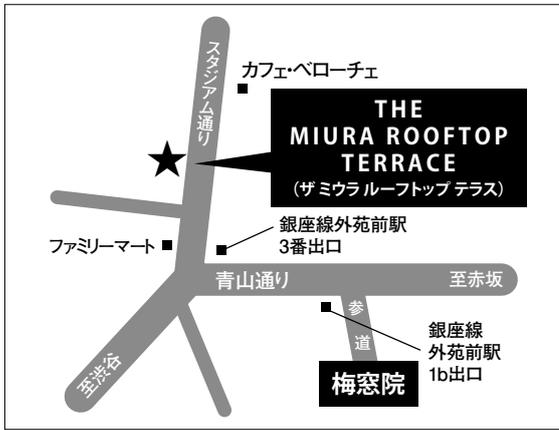
## THE MIURA ROOFTOP TERRACE

グリル料理と豊富な種類のお酒を楽しむことができるダイニングバーをご紹介します。中央区の勝どきに本店を構えるこちらのお店が青山に支店を出したのが、今年の4月という新しいお店です。



こだわりのアンティーク家具が溢れ、日光が差し込む抜群のロケーション。

オーナーはデザイン事業も手掛けており、料理だけでなく空間も楽しんで欲しいという思いとこだわりが詰め込まれた店内は、ピーコックグリーンと白を基調として洗練された内装で、日本にいることを忘れそうになるほどお洒落な雰囲気です。



営業時間 / 11:30~15:00 (L.O. 14:00)  
18:00~23:00 (L.O. 22:30)

定休日 / 月曜日

※最新情報は店舗まで直接お問い合わせください。

席数 / 32席 (室内16席・テラス16席)

住所 / 東京都港区北青山2-9-9 いちよの杜11F

TEL / 03-4400-4714



和牛ハンバーグセットには、季節のスープとバターライス、ドリンクのセットがついて満足感たっぷりです。

また、11階のテラス席からの眺めはとても開放的で、青山の青空を一望できます。まさに店名のルーフトップ テラスです。

ランチセットの和牛ハンバーグセットは、非常にジューシーながらも、ほろほろと柔らかい食感の至極の一品。また、濃厚で上質な味わいのフレンチトーストも超おすすめです。

カウンターの酒棚には入手困難な珍しいお酒がずらりと並べられており、様々な国のお酒を、様々な国のグリル料理と一緒に楽しむことができます。季節に応じてメニューが入れ替わるため、訪れるたびに違った味わいに出会えます。

また、毎週木金の夜はJAZZ・POPSを中心としたライブ演奏を行っており、贅沢な時間を演出します。そして、夜のメニューはこのお店ならではのグリルで、こちらも魅力的なメニューです。ランチや休日のご家族連れの方も訪れ、ベビーカーでの入店も可能です。

日常の喧噪から離れ、ひと味違う特別なひと時を過ごしてみたいかでしょうか。



11階のテラス席。梅窓院方面に広がる夜景。

### 投句募集

今回は「秋の季語」で自由にお詠みください。10月10日(金)を締切り、令和8年1月発送の『新年号』にて発表いたします。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募ください。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承ください。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係  
FAX:03-3404-8436(梅窓院広報部)  
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

### 「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡ください。

ウェブ編集室  
電話03-5368-1870

（ワンポイントレッスン）  
歳時記にはただ季語だけが載っていて例句が一句のもの、季語についての解説があつて例句がいくつものもの、とかいろいろな歳時記があります。できれば、簡単な解説でもついているものを手にしたいものです。例えば「麦の秋」。「麦秋」は多く季節を指し、「麦の秋」は多く景を指す、といった解説があるところらを使った方がいいのか分かってきます。

- ◎ 特選
  - 昼下がりのうちわであおぐ猫のひげ
- ◎ 入選
  - 草むしり唯一無心になれる時
  - 朝顔のつるの伸びゆく夏の朝
  - 真夏日やリハビリ室に人まばら
  - 梅雨やまず今日も一日猫とゐる
  - スクールバスから夏服の孫びよんと降り
  - 笹藪の日かげへ走る青蜥蜴
  - 夏の雲迎へ待つ間の木のベンチ
  - 投稿に「いいね」百付き梅雨に入る
  - サンガラスかけてみたけど浮くわたし
- ◎ 選者詠
  - 麦の秋遠くで雲が切れてゐる

大崎 紀夫

## 青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

## 行事予定

### 秋彼岸会法要

9月23日(火・祝)

寄席 午後1時～ 祖師堂  
法要 午後2時～ 祖師堂

※詳しくは3面をご覧ください。

### 第90回 念仏と法話の会

10月10日(金)

13時(受付開始12時30分) 観音堂  
法話:お寺が地域とできること

講師:秋田県横手市 九品寺住職  
津村侑弥上人

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

### M・ファン・デン・フック メモリアルコンサート

10月23日(木)



マルティンファンデンフック  
メモリアルコンサート

※イベントに関するお問合せ・お申し込みは主催者様へ直接ご連絡ください。檀信徒の方は特別料金2,500円のご案内となります。チケットお申し込みの際、「梅窓院の檀信徒であること」をお伝えいただけましたら檀信徒料金が適用されます!

※本イベントは自由席となっております。

※コンサートの詳細につきましては別紙チラシをご覧ください。

### 十夜法要

11月15日(土)

### 第18回文化講演会

11月30日(日)

テーマ:自分らしく輝ける未来

- 仏教と見つける“わたし色” -

講師:アーティスト/僧侶

西村宏堂上人

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

### ■護寺費・年会費・墓地管理費

自 令和 6年4月 1日

至 令和 7年3月31日

(単位:千円)

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	117,827	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,189
		法要費(仏具・法衣・線香など)	18,281
墓地管理費として	29,553	保守修繕費(建物)	27,227
		保守修繕費(墓苑・境内)	158,904
梅窓院からの繰入金	158,215	人件費	92,300
		事務費(郵送費・コピーなど)	5,694
合計	305,595	合計	305,595

梅窓院からの繰入金合計:760,396  
(令和2年4月1日～令和7年3月31日)

会計報告を本誌に掲載させていただきます。ご確認を宜しくお願いたします。

梅窓院より会計のご報告

### 梅窓院のお墓とペット供養の窓口

### ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

暑さ寒さも彼岸までという言葉が遠く感じられるようになりました。これを読んでおられる時はまだ夏真っ盛りですね。

ところで最近の結婚式などで新郎新婦の子供の時の写真やビデオが流れて会場が「若〜い!可愛い!」と盛り上がります。今はご葬儀の際にも故人様の結婚式や家族旅行の写真などを飾られていることが増えたように感じます。以前、お檀家様に「森さんは知らないだろうけれども私だって昔は可愛い嫁だって言われたことあるのよ」。その写真を見たのはその方のお通夜の時でした。「可愛いって言っているのは本人だけですよ」などと悪態をついたのが申し訳ないくらい可愛いお写真でした。ご存命の時に見せていただきたかったな、とちょっと悔やんでおります。

結婚時に披露する場合は時間にゆとりがありますが準備期間の短いご葬儀の際は皆さんどうされているのでしょうか?私もちょっとアルバムなど整理しておきたくなりました。見たい人とかいるでしょうか?  
(墓苑事業部:森)

### 梅窓院からのお知らせ

6月6日(金)

「アジア発展地区支援第36回(令和7年度)水月会贈呈式」が行われました。



### お檀家さんに伺いました

令和7年 施餓鬼会法要にて

#### 「毎月お参りに来ています」

施餓鬼会法要には小さい頃から毎年訪れており、梅窓院には毎月足を運んでいます。うちは三代目になりますが、初代が増上寺と梅窓院の間で迷った末、梅窓院を選ばれたことが梅窓院の檀家になったご縁です。ここはアクセスも良く、竹や桜がとても綺麗で魅力を感じています。昔は茶室もあって、いい意味でお墓っぽくない雰囲気がありますよね。

「お願いごとは観音様が叶えてくれる」というご僧侶のお言葉がありましたので、お参りの度に観音様に手を合わせてお願いごとをするのが恒例です。これからも変わらず、ご先祖様に会いに梅窓院に足を運びたいと思います。

発行 梅窓院  
発行日 令和7年9月1日  
発行人 中島 真成  
編集 梅窓院 広報部  
住所 〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38

電話 03-3404-8447  
FAX 03-3404-8107  
ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡